



内宮に似た清廉なる佇まい

瀧原宮は、伊勢神宮内宮(皇大神宮)の別宮であり、祭祀や祭神などで正宮と特別な関係にある神社。正宮について尊い御宮と言われ、古くから「大神の遥宮(とおのみや)」と呼ばれている。(地元では、この地を指して「野後(のじり)さん」とも呼ばれているらしい)。

御手洗場で手水を清め…

さて、大駐車場のある「木つつ木館」から歩くこと600m、伊勢神宮と同じ鳥居が見えた。やわらかい日差しが、鳥居の前を明るく照らしている。

ところがそこから先は、うっそうとした森が続き、薄暗い道が一本、奥へ奥へと続いているばかりだ。鳥居とは、現世と常世との境界を示す門とも言われるが、まさにそんな感じの風情である。

歩みを進めると、「御手洗場(みたらし)」の看板が見える。その先にも手水舎はあるが、ここではぜひ古来の作法に従ってみてほしい。脇に流れる頓戸(とんど)川に下れば、そこが御手洗場だ。澄んだ水をすくい、手や口をすすいでみる。とても暑い日だったが、ここはとても涼しく、実に清らかな気分。ふう～、気持ちイイ!



内宮に似た
 清廉なる佇まい



社殿から感じる圧倒的な存在感

なだらかな坂になっている参道から境内に入ると、突然目の前が明るく開けた。社殿は、少し高いところに建っており、まるで舞台のようにになっている。「わあ…」「すごい」圧倒的な存在感に、あちこちから感嘆のため息が聞こえてくる。そこには式年遷宮を終えて美しくなった神明造りの瀧原宮(たきはらのみや)と瀧原竝宮(たきはらのならびのみや)が並んでいた。中央には樹齢7,800年は超えようかという立派なスギの木が、ふたつの社を守るようにそびえ、瀬戸川からは清廉な空気が流れこんできている。この何とも言えない空気感は何だろう。「感じ方は人それぞれですが、社殿や自然などあらゆるものから、何かを感じることが信仰につながります」というのは、神宮司庁広報室の音羽さん。そうか、神社と言えば参拝するだけ、じゃない。こうやって、感じる楽しみもあるのだな。古来、森や山そのものが神社だったそうだから、自然から何かパワーのようなものを感じるの、あながち間違いではないのかもしれない。



日本のこころとは、慎み深い感謝の心

バスツアーのご婦人が、足元の階段のコンクリート部分から木の根っこが飛び出ているのを見て「あら、すごいわね」と言った。自然の生命力を前にとても謙虚な気持ちになる、これが神社のいいところなのかも。「参拝の作法は二拝二拍手一拝と一般に言われていますけれど、それよりも感謝の気持ちを伝えることが大事なのですよ」。

慎みの心こそ日本のこころ。

古代から連綿と続いてきた道の奥深さを思い、静かな気持ちで手を合わせた時、私たちは、とても満ち足りた気持ちになる。さあ、大いなる自然の前で、日々の感謝を伝えよう。スタートボタンを押すように、また清らかな自分にリセットできるから。



瀧原宮

写真で紡ぐたび



瀧原宮の鳥居は「神明鳥居」といい、伊勢神宮で最初に建てられた形式。柱は丸材で、地面に垂直に立ち、笠木はそりがなく水平に渡されているのが特徴だ



本来、手水をとるのは裸を簡略化したもの。伊勢神宮の内宮でも、昔は五十鈴川に入っていた



社殿は素木(しらき)を基調とした「神明造り」。稲などの穀物を収める倉庫が神殿に発展したものだ。式年遷宮を終えて、まばゆいばかりの美しさ

♡ コンシェルジュからのおすすめのポイント！



瀧原宮、瀧原竝宮は、ともに皇大神宮(内宮)の別宮で、昔から「大神の遥宮(とおのみや)」といわれています。ご鎮座の地は宮川をさかのぼること約40km、その支流大内山川が深い渓谷をなして流れる山間にあります。伊勢神宮では、平成25年秋には1,300年、62回目の式年遷宮が行われました。瀧原宮はいつから式年遷宮が行われたかわかっておりませんが、おそらく同じように行われているのではと思います。瀧原宮は内宮に似た佇まいがあり、自然とあいまってとてもすがすがしい気持ちになりますよ。森の深い場所にある、美しく清らかな瀧原宮へぜひお越しください。



コンシェルジュ
神宮司庁 広報室 音羽さん

スポット概要



■住所	度会郡大紀町瀧原
■休館日等	なし
■料金など	無料
■公共交通機関でのアクセス	JR「滝原駅」下車徒歩約20分程度、三重交通南紀特急バス停「瀧原宮前」下車すぐ
■車でのアクセス	国道23号から交差点「大淀」を東へ5分
■駐車場	100台



このStoryを
スマートフォンでも
ご覧いただくことができます。

Storyで紡ぐたび ～もののあはれ中南勢ものがり～

<http://story.kankomie.or.jp/>